

オーブン
カレッジ

『ファウンダー ハンバーガー帝国のヒミツ』というアメリカ映画が2017年夏に公開された。世界的なハンバーガーチェーンであるマクドナルドはマクドナルド兄弟が1948年にカリフォルニア州で始めたハンバーガーショップを原点に、セールスマンであったレイ・クロックがフランチャイズ化したものである。その後、61年にマクドナルド兄弟は経営権を270万円でクロックに売却

団塊世代経営者の事業承継

る。しかし、クロックがいなければマクドナルドは単なる田舎の成功したハンバーガーショップにしか過ぎず、世界的な企業に発展することはなかった。

起業した経営者にとって企業をどのように次世代に引き継いでいくかは大きな課題である。2015年に大塚家具の経営権を巡り勃発し、マスコミに大きく取り上げられた親娘の争いはまさにその典型である。父は娘に会社を継がせたいと2回も引き継いだにもかかわらず、娘の経営方針に不満を持ち介入したが、結果として経営権を失うことになった。父は後に持ち株を

ともに経済状況が大きく変化し、それに伴い彼らを取り巻くビジネス環境も変わっているにも関わらず、過去の成功体験によって従来の方法をそのままにしたことが失敗の原因であり、時代の変化を読み取ることや過去の成功体験を脱することとは難しい。そのため時代のニーズに合わせて次の経営者に引き継ぐことで企業の存続やさらなる発展が可能になる。惜しまれつつ引退すれば、松下幸之助や本田宗一郎のように「成功した引退者」としての活躍の道もある。

企業においては団塊の世代の社員的大量退職の時期を迎えたが、同様のことは中小企業の経営者についても起こっている。家族経営のような中小企業の場合、後継者となる人材が見つからないために事業承継が出来ず、廃業せざるを得ないケースも増えている。そのような企業の中にはさらなる発展が期待できるものもあり、廃業による損失は大きい。

「脱家族経営」で 事業継続を

し、マクドナルドを離れることになった。映画ではクロックを強引な人物として、善良なマクドナルド兄弟を追い込んで経営権を取り上げたように描いてい



檀山女学園大学
現代マネジメント学部准教授
水野 英雄

売却して別の会社を創業した。持ち株を処分すればそれだけの資金を確保できるのであり、創業者は無理をして経営を続けなくても、楽に引退生活を送ることも可能である。先のマクドナルド兄弟も当時の270万円であることを考えれば決して少なくない金額を受け取っている。

成功者としてテレビ番組などに出演している経営者が、しばらくすると登場しなくなり、その後事業が行き詰まるということがしばしば起きている。時代の変化と

新たな起業に目を向けがちであるが、既存企業の円滑な事業承継、特に「脱家族経営」によって後継者難の企業の買収を容易にすることで、売却者にとっては引退後の十分な資金、買収者にとっては既に成果を挙げている有望な事業が得られ、社会的にも既存産業のさらなる活性化につながる。

みずの・ひでお 国際経済学、貿易政策、経済政策。名古屋大学大学院経済学研究科博士課程後期課程退学。1968年生まれ。